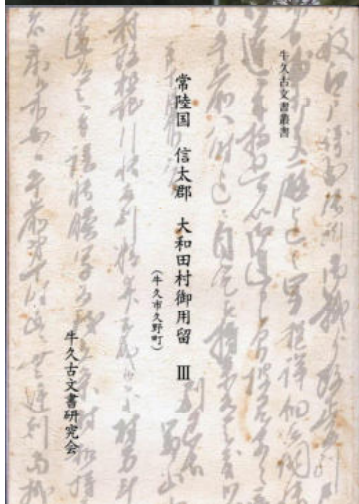




おくの地区社協
 さく いいだあきお

『大和田村御用留〔明治6(1873)年癸酉3月～明治27(1894)年11月〕』 (茨城県立歴史館所蔵)

なっちゃんが、ぎむきょう
いくがっこうのちかくをある
いていると おかあさんが、

「このちくのなまえしって
る？」

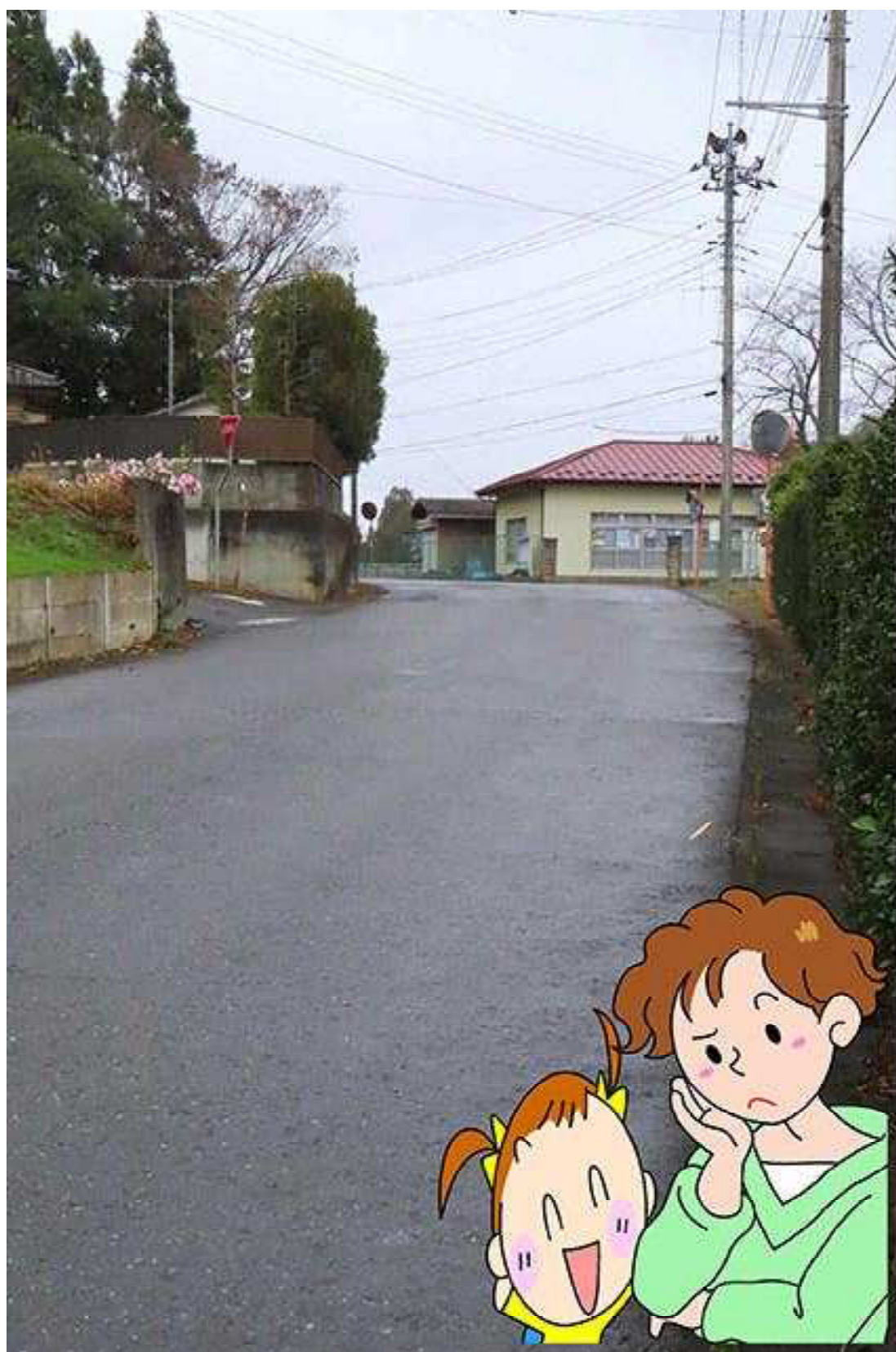
と きいてきた

「え！なまえ、知らないわ？」

「おおわだというんだよ」

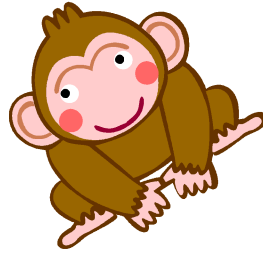
「あ！そうか わかったわ。
おおわだって、どんなちくな
の？」

「ん～、あまり知らないわ」



なっちゃん、おじいちゃんに きいてみることにした。ものをよく知っている おじいちゃんが、だーいすき。

あれあれ、これはおもしろそうと、なぜなぜくんが、もりからあそびにきたよ。どこかな？



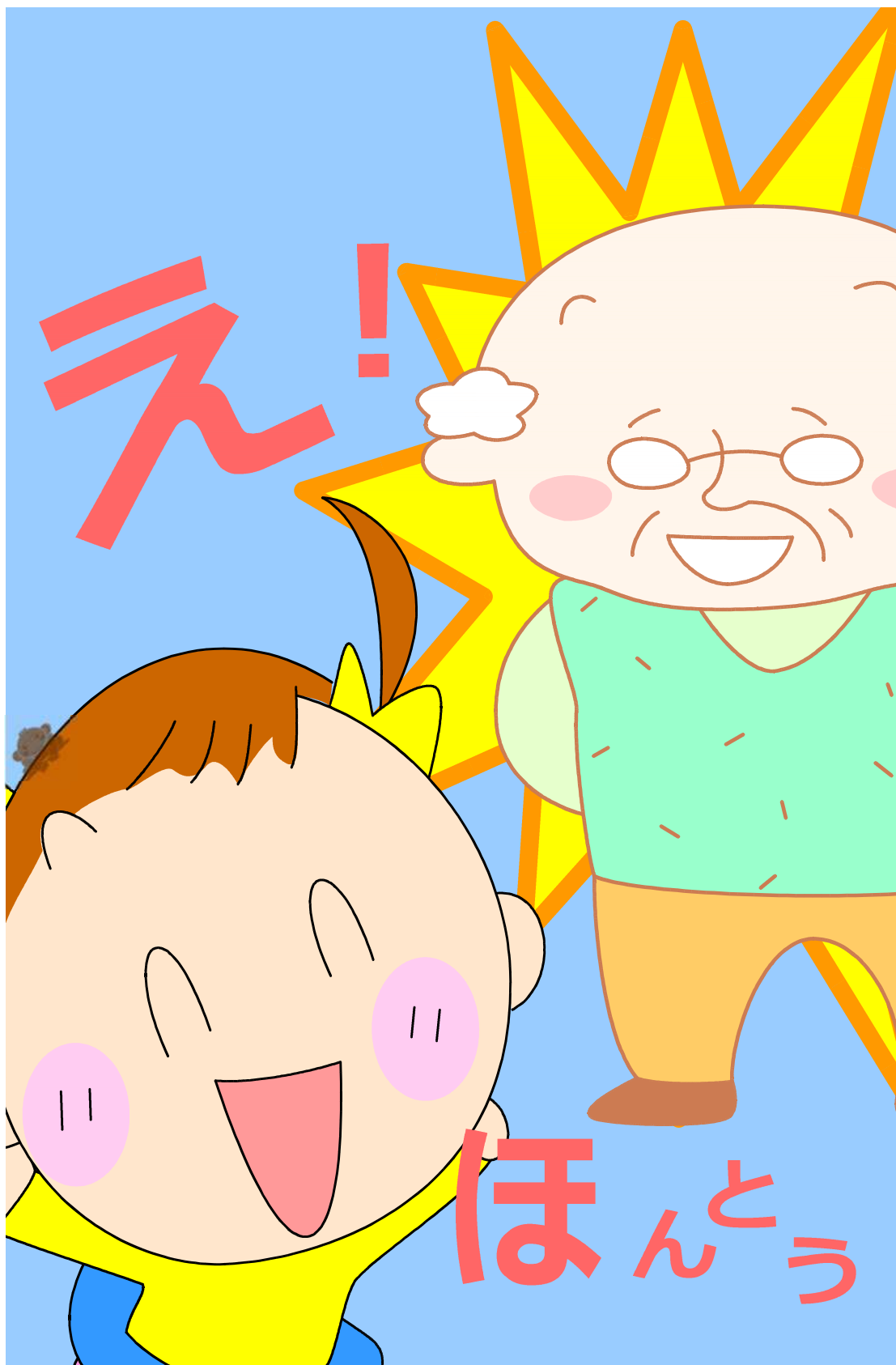
わたしは、なぜなぜで一す。

おじいちゃんに
きいてみると



「そうだな・・・。えど
じだいにくのむらからわ
かれたむらだときしてい
るが・・・。

くわしいことは、わか
らないから、あきおさん
にきいてみれば・・・。
いっしょに　いってあげ
るよ」



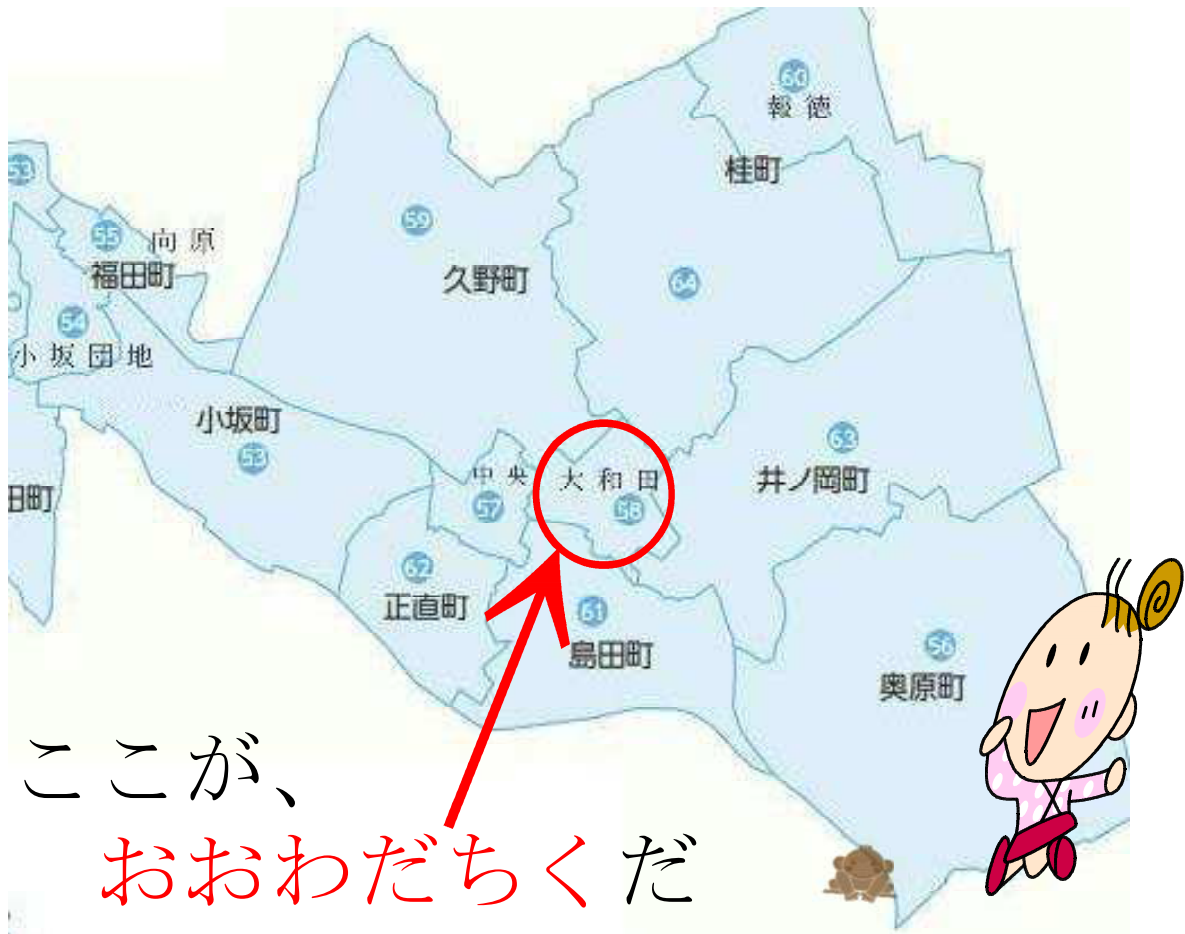
やくそくのひ。おじいちゃん
んと　ともだち３にんで、あ
きおさんのいえにいった。

おじいちゃんは、ようじが
できて、いそいで　かえって
いった。

でも、なっちゃん、ゆうき
をだして、**おおわだちく**につ
いてきいてみた。

すると、にっこりわらって
きちょうな**ちず**を　みせてく
れた。

「いまの**ぎょうせいく**のちず
だ」



1 7 0 0 ねんころに**おおわだむらは、くのむら**からどくりつしたんだしんぺんひたちこくし(新編常陸国誌)。
 こくだか(石高)は、**げんろくごうちょう**(元禄郷帳)では、やく63ごくだったんだ。

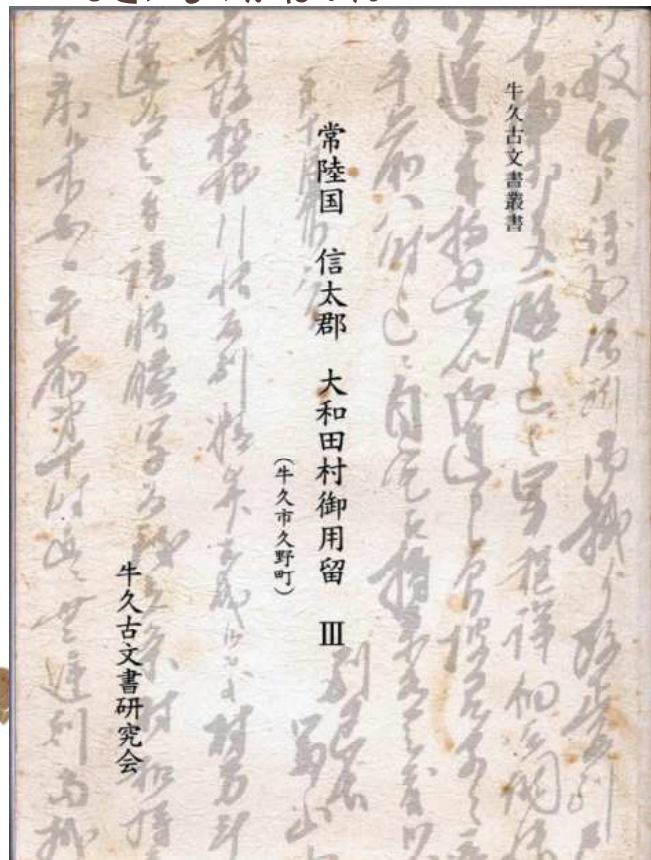
「6 3 ごくってどのくらい？」

「ん～そうだね。1 こくは、
おとなひとりが、いちねんか
んにたべる **こめ** のりょう。

だから、おとな 6 3 にんが、
たべていけるりょうってこと
かな」

しだぐん おおわだむら とりしまりなぬし
もとはしけがほかん

そのとき
だった。 **お**
おお **だ** **ち** **く**
の **く** **ち** **ょう**
さん が、 **ほ**
ん を も っ て
きてくれた。



このひのために あきおさんが、たのんでおいてくれたという。

「このほんの^なは、^{お お わ だ む ら}大和田村御用留^{ご よ う ど め}というんだ」

「御用留^{ご よ う ど め}って、なに？」

との^さまからの

- ①ふれ^しょ（触書）
- ②かい^じょう（回状）
- ③が^んしょ（願書）
- ④う^かが^いし^ょ（伺書）などをあつめた^{ほん}なんだよ。このほんは、^{お お わ だ む ら}のとりしまり^{な め し の も と は し け}にだいたい つたわっているものなんだ。」

たとえば②かいじょう (回状)
「舟船検査について」では、



「せんしゆのいんをもって、
おくばらむらに くることを
むらのふねもちに もれなく
つたえること。この通達 (つた
えるもの) をいそいで、じゅんお
くりすること」と あった。

びっくり!

さらに、このほんによると
1、このむらは、くのむら向塙
にすむ百姓主税（のちにおおわだむらな
ぬしとなり、そのごだいたいなぬしとなり 名字・帯刀
をゆるされた）とほかの3かぞく、
あわせて4かぞくでかいたく
して、ひとつのむらをつくっ
たんだ。

でもね。むかしからすいが
いが、おおかったんだ。えど
じだいの1838ねんのおお
あめによるこうずいで、むら
こくだか65こくのうちやく

5 7 こくが、うしなわれ、い
えも 1 0 けんあったが、その
うち 8 けんが、つぶれてしま
ったんだ。



びっくり！

たいへんだ！

でも、みんなで、たすけあったんだ。

すごい

それでもどうしようもなく
て、せきやどはん^{はいしやくねがい}にきん30
りょうの拝借願^{いただけるようにおねがいする}をだしたんだ。

「きん30りょうっていくら
くらいなの？」

「ん～。やく1りょうは、
10まんえんくらいかな。だ
から、30りょう
は、その30ばい
のやく300まん
えんくらいかな」



そのごも **おおあめ**による
さいがい^{ちようろう}が、ながくつづいた
んだ。長老のはなしでは、こ
の**おおわだばし**は、よくみず
につかったという。むかしは、
き^{もくざい}（木材）でつくられていたん
だとか。



びっくり！

でも、**おおわだ**のひとたちは、たすけあって、たえしのいだんだ。

すごい

たいふうで、いねのほのほとんどが、だめになって、のこった**いなほ**をてで、つんだこともあるそうなんだ。

びっくり！

でも、ふしぎだわ？あんなに ちいさい**おっ**と**がわ**なのに・・・。





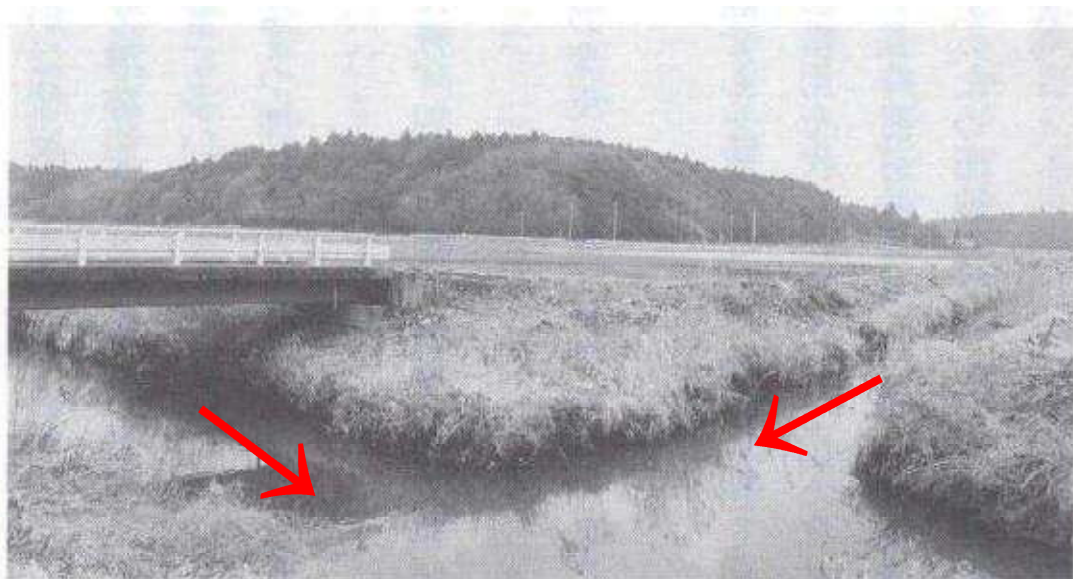
じつはね。
いまは、かわ
がまっすぐだ
けど、むかし
は、くねくね
まがっていた
んだよ。しか
も、みずのり
ようもおおか
ったんだ。

おおあめの
ときには、おつとがわとかつらがわ
のながれが、おおわだちくであわさ
り、くわえてかすみがうらの
みずが、ぎゃくりゅうして、
だいこうずいになったんだ。

(たいふうのあと、かすみがうらのさかなが、
ここで、とれたらしいんだ)



びっくり!



乙戸川と桂川の合流点 (戦後河川改修された)



大和田堰跡 案内者本橋敏朗氏

いまのこうりゅうてん



そこで、おおわだのひとたちが、つくったのが、**おおわだせき**なんだ。

「せきって、なに？」
いしや**つち**をもって、
 みずのりょうをちょう
 せいするところなんだ。
 くろうしたんだね。



2、おおわだむらには、なぬ
しをのぞき 5 にんぐみ (たすけあ
うなかま) が、2つあった。

このことから、すくなくても
も 1 1 けんがあったのかも？
なんでも、うしくでも 3 ば
んめに ちいさいむらだった
そうだよ。

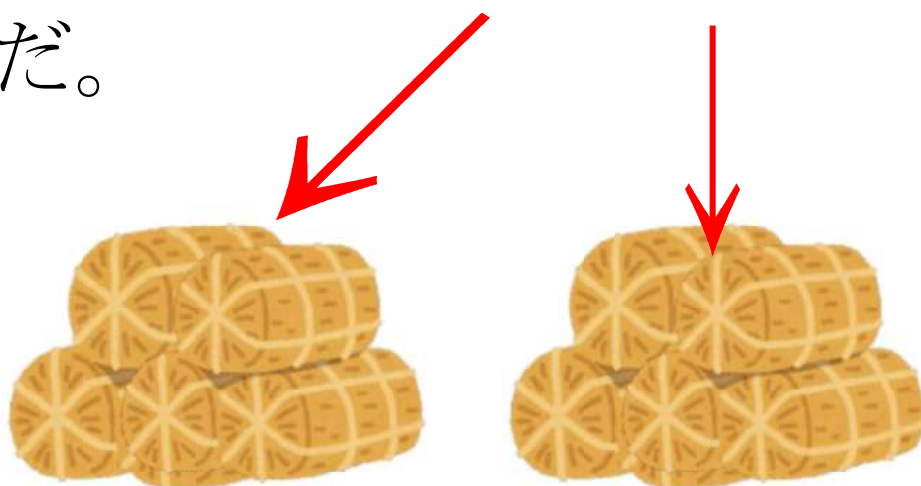
びっくり！

「そうだったのか」



3、せきやどはんのねんぐ (ぜいきん) は、4公6民 (10ぴょうのこめがとれたら、そのうちの4ひょうが、ねんぐになるんだ。) とかるかったんだよ。

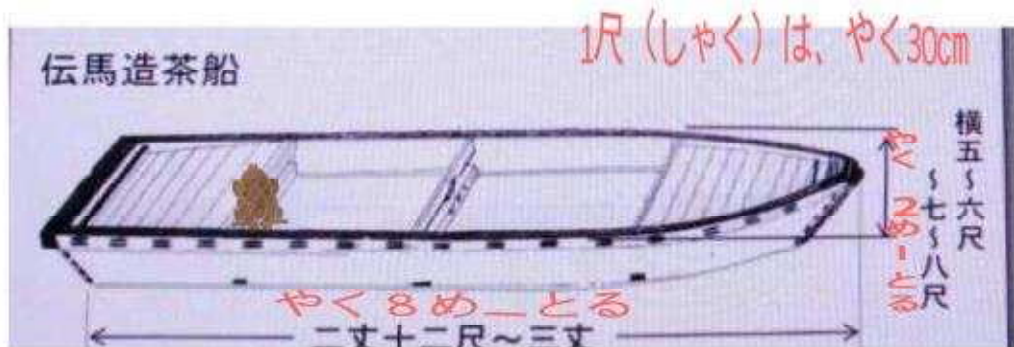
ふつうは、5公5民だったんだ。



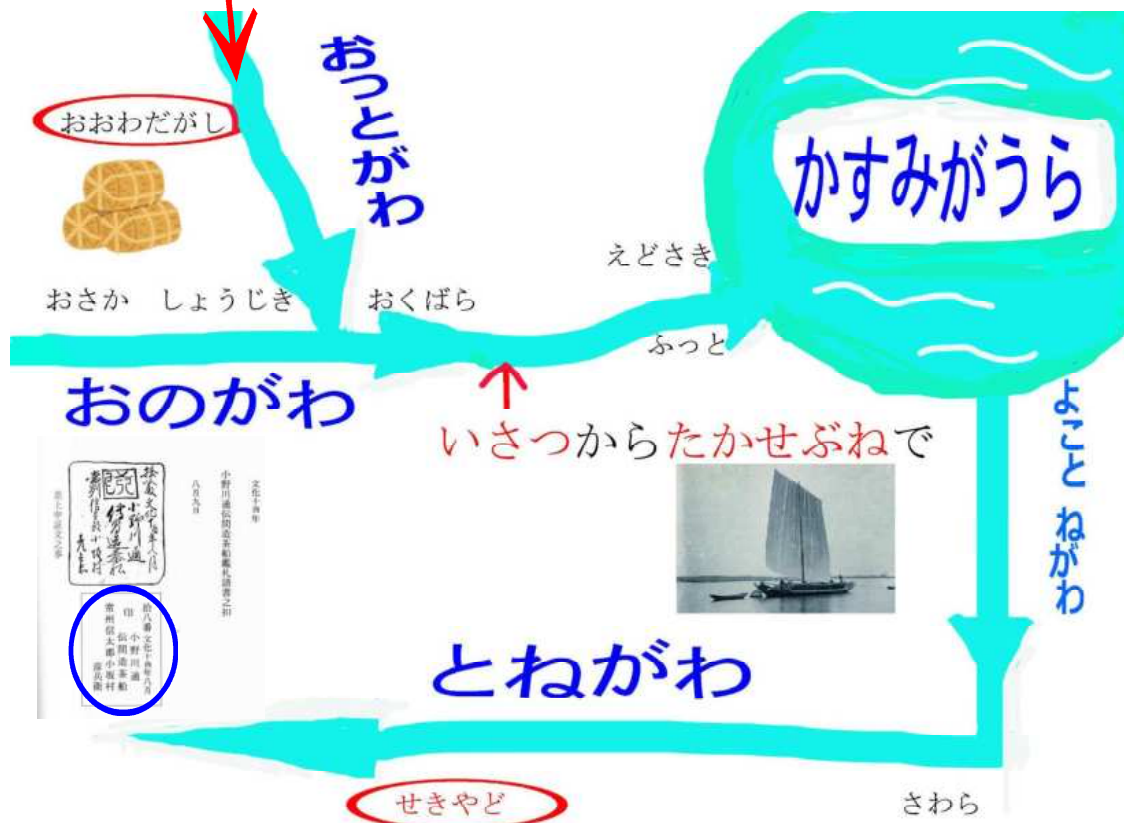
ねんぐは、こぶね (てんまづくりちやぶね) につんでおつとがわのおおわだがしよりおのがわをくだり、いさつがしでたかせぶねにつみかえてかすみがうらに

でて、とねがわをとおってせ
きやどまで、はこんだんだよ。

でんまつくりちやぶね



このちいさなふねで



でも、どうして、ひとでなく、ふねで はこんだの？
それはね、



※ したのひょうは、はこぶちからくらべだ。

はこぶちからくらべ

江戸時代の輸送力

江戸時代の輸送力	
たかせふね 利根川高瀬船	200～1200ひょう 200～1200俵
静下船 でんまつくりちゃふね	240～480俵
伝馬造茶船・小鶴飼船	25俵 25ひょう
馬 うま	2俵 (1駄) 2ひょう
人 ひと	1俵 1ひょう

おおわだがしからでんまづ
くりちゃふねで、こめやく 25
ひょうをはこぶことが、でき
たんだよ。

びっくり!

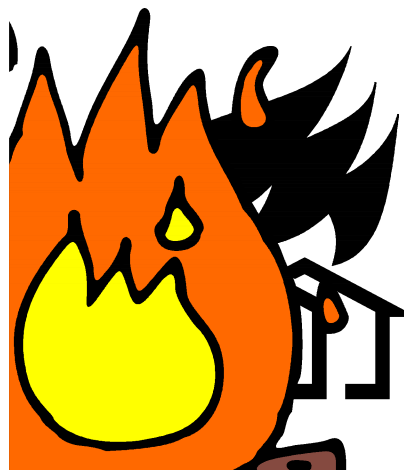
さらにいさつで、たかせぶ
ねにのせると、こめ 200 ひよ
う～ 1200 ひょうも はこべた
んだよ。

びっくり！

おっとながわは、あばれがわ
だったけど、めぐみのかわで
もあったんだ。

びっくり！

はなしをもとにもどそう
ね。**ねんぐ**は、やすかったん
だが、**おおわだ**
むらでは、18
56**ねん**の領主
屋敷類焼（よそからき
たかじで、やけること）で、
冥加金（りんじのぜいきん）として**き**
ん2ぶ（1りょうのはんぶん
：やく50000えん）を**はん**に
おさめたんだ。



※ちなみにおなじ**はんない**のこ
くだか1800こくのもりやまちで
は、**きん85りょう2ぶ**だった
んだ。**むら**のおおきさで、冥加金
も、ちがっていたんだね。

4、せきやどはんは、信太郡 村々田畑荒地年季取調掛に

おおじょうや もとばしひようご
大庄屋 本橋兵庫

とり しまり
取 締

もとはしわさぶろう
本橋和三郎

おおわだむらなぬし ちから しそん
(大和田村名主・主税の子孫)

おさかむらなぬし
小坂村名主

さいとうちゆうざえもん
斎藤忠左衛門

いぬずかむらなぬし
犬塚村名主

いしかわひよううえもん
石川兵右衛門

をにんめ
いし、ね
んぐのせ
わとうを
させた



おおじょうや
(くの(久野)の大庄屋のいえ)

5、おおわだむらは、めいじ
からせんごまで、おくのむら
やくばやおくのしょうがっこ
うがあり、おくのむらのちゅ
うしんちだったんだ。



奥野村役場跡

昭和16年まで所在、その後奥野村中央に移転

ちなみに、おおわだむらの こすうと にんずうは、



せいれき	こすう	にんずう
1 8 4 7ねん	7こ	2 7にん
1 8 4 8ねん	7こ	2 9にん
1 8 6 8ねん	1 4こ	7 8にん

だよ。

なお、うしくまちとのがっ
ぺいのときにそんちょうだっ
も と は し ぎ い ち
た本橋義一さんち から（主税の子孫）は、
しょうわ47ねんに つたえ
い ば ら き け ん
られてきたしりょうを茨城県
り つ れ き し か ん き ぞ う
立歴史館に寄贈したんだ。



『大和田村御用留〔明治6(1873)年癸酉3月～明治27(1894)年11月〕』（茨城県立歴史館所蔵）

すごい

ほんをよみおえて

「こんなに、たくさんのしり
ょうが、のこっていたなんて

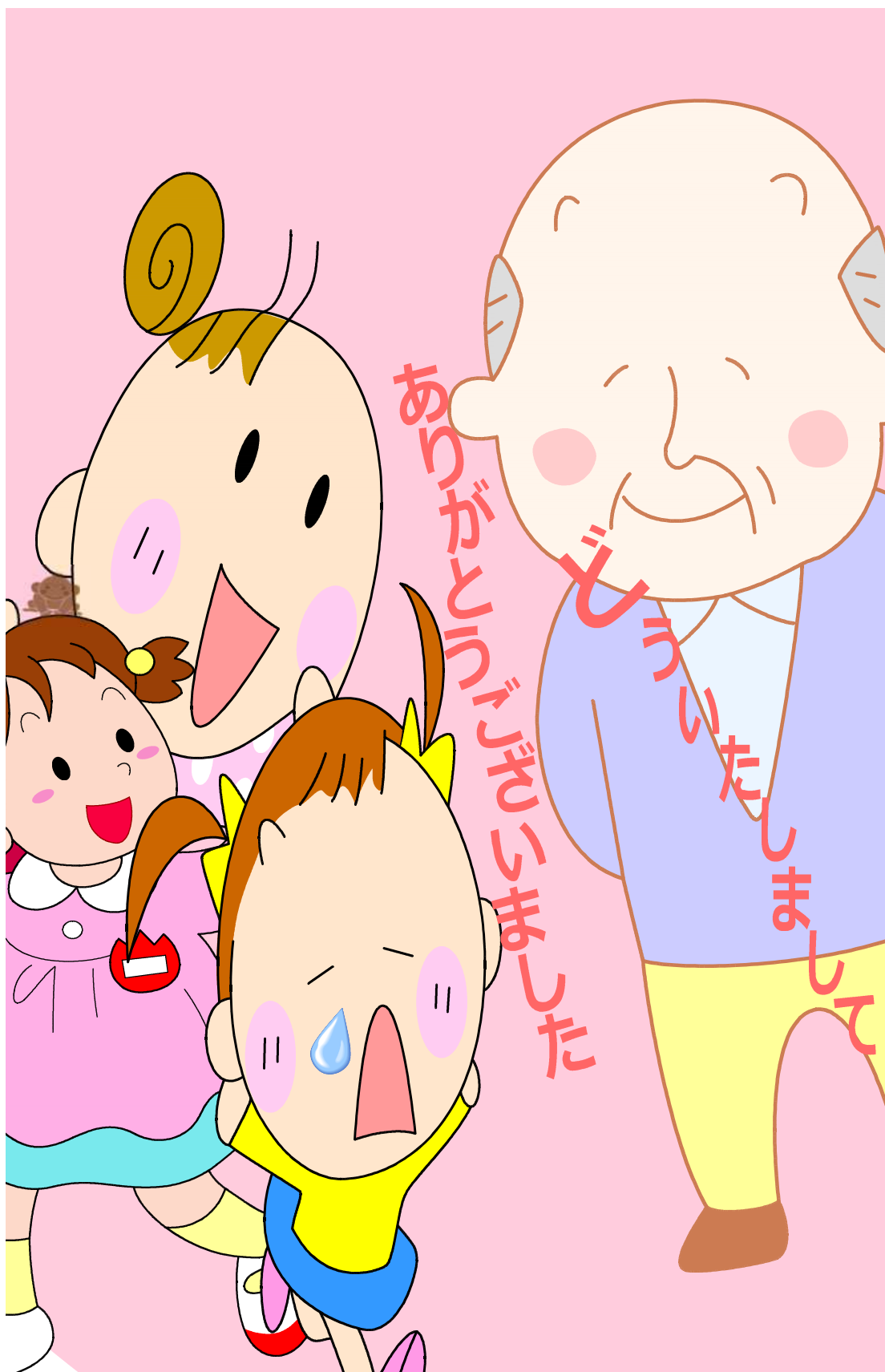
びっくり!

これから、**おおわだち**くだけ
けでなく、**おくのちく**のひと
びとのくらしが、よーくわか
るんだよ」
と あきおさん。

びっくり！

なっちゃんのためになみ
だが・・・。

そして、あきおさん
におれいをいって かえっ
ていった。



なっちゃん、いそいで
かえって、おじいちゃん
に おしえてあげたよ。



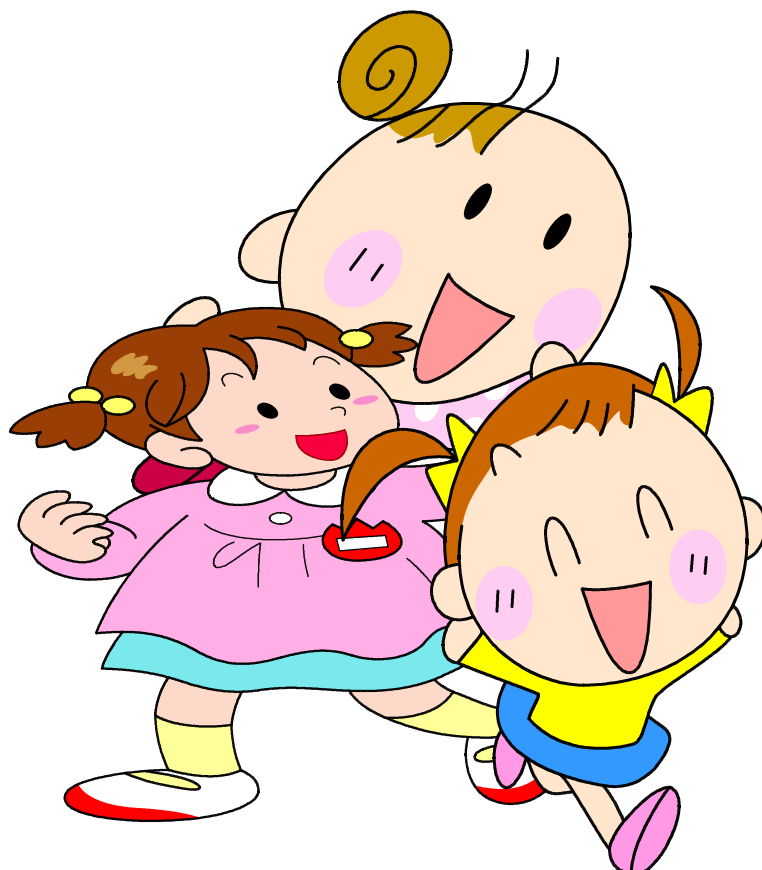
「よーく、しらべたね」

えらい えらい

と めになみだをうかべ
て、よろこんでくれた。

なっちゃん、おもわず
にっこり。

こうして、さんになは、
おおわだちくのれきし
お お わ だ ち ゅ う ど め こ も ん じ よ
(大和田村御用留・古文書
114 てんなど) が、おくの
のたからものの一つだとい
うことが、よーくわか
った。



さて

こんどは、なにを
しらべようかな？

あれあれ？「すごーくたのしかった」と なぜなぜ
くん。つぎのひみつをもとめてスキップしながら か
えっていった。



またね